

ありふれた和平で世界平定（ディストピア）

LW

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

王都決戦で脱落した檜山が周回して、

「香織はもう諦めて、もっと凄い美人を口説く！」と決意。

再び異世界召喚されて、異世界トータスでノイントと出逢う。檜山×ノイントの、ノイント物。

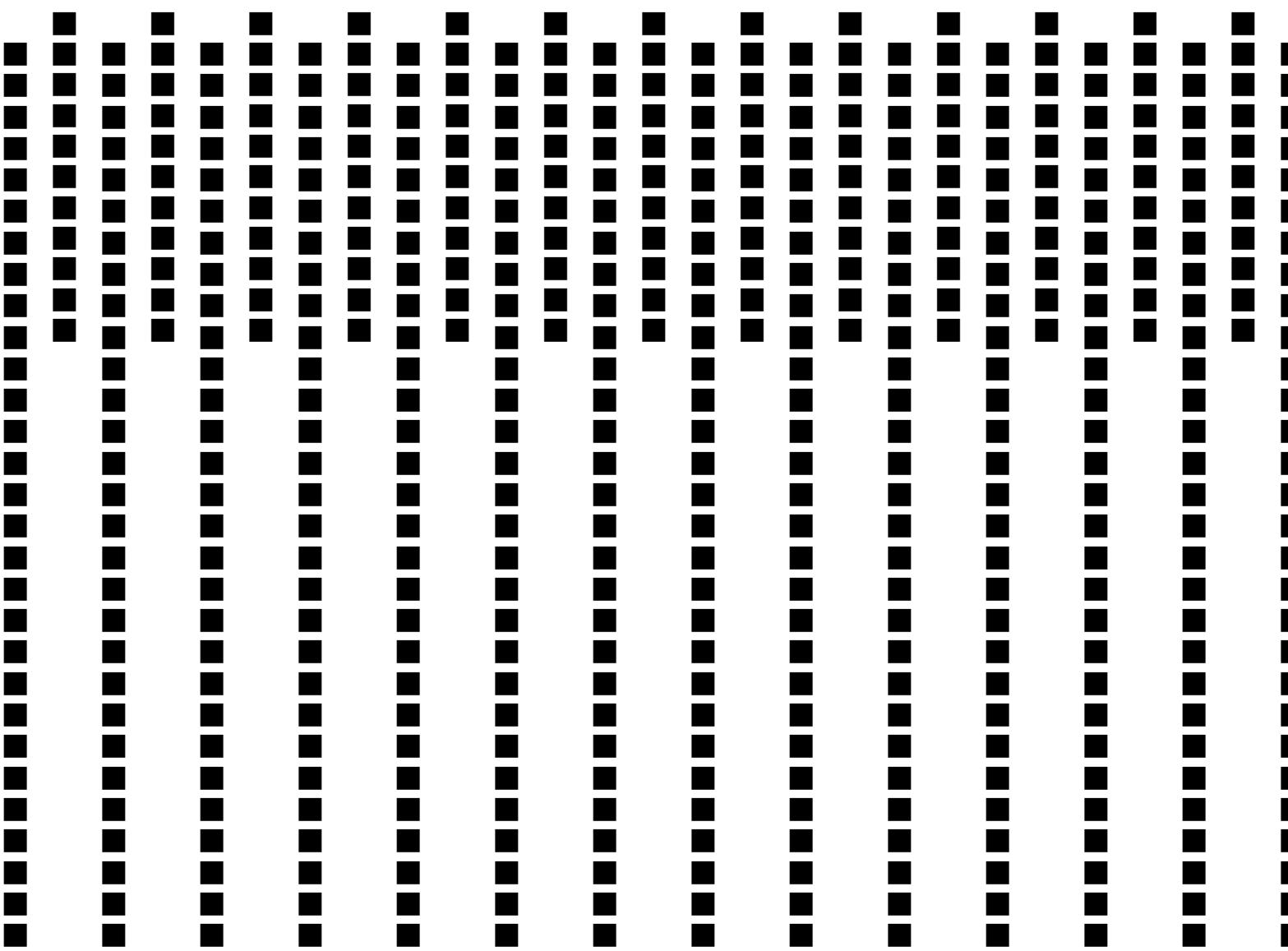
目 次

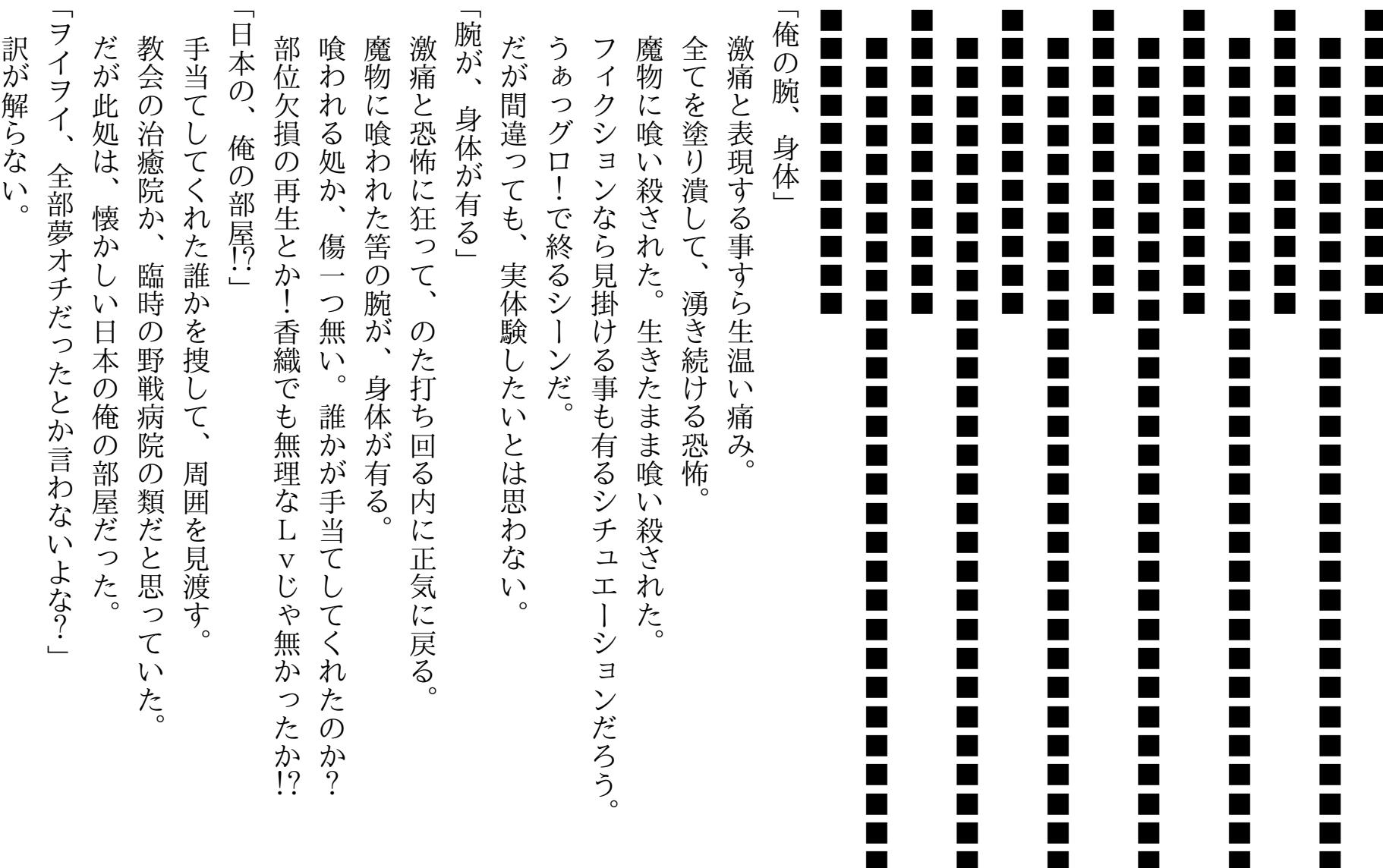
01	香織はもう諦めて、もつと凄い美人を口説く！	1
02	フラグメント	
03	死亡フラグと呼ばれているのでは？	
04	ちっぽけ何かじや無い	
05	園部を日本に帰してやりたい	
06	はぐれなメタル	
07	トータスの平和と、日本に帰還する第一歩だ！	
08	少しだけ周りにも目を向ければ、答えは見つかるんじやないか	
?	な？	
49	43	36
	28	21
	14	7
	1	

01 香織はもう諦めて、もつと凄い美人を口説く！

「アアアアアアアアアアアアアアツツツツツツ!!!!」

痛い痛い痛い、イタイイタイイタイツツツツ!!!!





「俺の腕、身体」

激痛と表現する事すら生温い痛み。

全てを塗り潰して、湧き続ける恐怖。

魔物に喰い殺された。生きたまま喰い殺された。

ファイクションなら見掛ける事もあるシチュエーションだろう。
うあつグロ！で終るシーンだ。

だが間違つても、実体験したいとは思わない。

「腕が、身体が有る」

激痛と恐怖に狂つて、のた打ち回る内に正氣に戻る。

魔物に喰われた筈の腕が、身体が有る。

喰われる処か、傷一つ無い。誰かが手当してくれたのか？

部位欠損の再生とか！香織でも無理なL▼じや無かつたか！？

「日本の、俺の部屋！」

手当してくれた誰かを捜して、周囲を見渡す。

教会の治癒院か、臨時の野戦病院の類だと思つていた。

だが此処は、懐かしい日本の俺の部屋だつた。

「ライライ、全部夢オチだつたとか言わないよな？」

訳が解らない。

混乱する頭を落ち着かせて、状況を整理する。

俺は檜山大介。認めたくは無いが、ありふれたただの高校生だ。
だと言うのに他のクラスメイト共々、異世界召喚された。
異世界トータスでは勇者だの神の使徒だの呼ばれて、戦争に強制参
加。

確かに天之河が代表して同意はした。

だが突然拉致られて、外国処か異世界。

此処で拒否したら、処刑とか国外追放臭かつた。

運良く国外追放で済んでも、異世界にいきなり放り出されるのは辛
い。

魔物が居て、治安？ナニソレ美味しいの!?と言うガチの世界。
難易度高めのスタートだと思う。

「仕方無かつた。筈だ」

戦争の参加を決めた俺達は、鍛錬を積み続けた。

それこそゲームのキャラのように、LVUPして行くのを実感す
る。

と言うかゲームだつた。お約束のステータスやら魔法が有る。
そうして過ごす内に初の実戦！オルクス大迷宮。

俺は此処で、南雲を殺した。香織を手に入れる為だ。

上手くやつたと思つていた。

撤退中に一発！ドカンとやつて、南雲を奈落に突き落す。
これで香織は俺のモノ！そう思つた。

だが香織は諦め無かつた。南雲は生きて居た。

奈落から這い上がって、バケモノになつて帰つて來た。

アレはもう魔王！奈落の魔王だろう！?

それからはもう、泥沼だつた。

南雲の生還を知つた香織は、南雲に付いて旅に出た。

俺は香織を諦められずに、あのネクロフィリアのキチガイと手を組
んだ。

それで王都の決戦でも色々やつて、

やつぱりバケモノだつた南雲にやられて、最期は魔物に喰い殺され
る。

た。

本氣で色々有つた。これが全部夢オチ!?

それとも、最初からリスボーンで日本に帰れたのか!?
と言つても、これが夢オチだと信じていない。

魔物に喰い殺された記憶が、恐怖が！余りにリアルだからだ。
それともう一つ、変わった事がある。

「香織はもう諦めて、

もつと凄い美人を口説く！これだつつつ!!!」

香織に対する執着が、綺麗にサッパリ消えていた。

俺は香織を手に入れる為、最終手段に出た。

香織を殺した。殺してでも香織を入れようとした。
だが香織は、俺のモノになら無かつた。殺してもダメだった。
やれる事はもう、全部やつたって感じだ。もう出来る事が無い。
そう思つたら、もうどうでも良くなつた。
と言うか？あの魔王の女に手を出す気は失せた！と言つても良い。

†

「おはよう、白崎さん
「おはよう、檜山君」

普通に挨拶出来た自分を誉めてやりたい。

と言うか困惑が顔に出ていないかが、懸念材料である。
状況を整理している内に、今日が平日だと気付く。
支度を済ませて登校。高校に顔を出す事に決める。
他にも日本に戻つて来たクラスメイトは居るのか？
それを確かめる心算だった。

だが教室は予想以上に賑やかだ。

見知ったクラスメイトは居た。居た処か【全員】居る。
俺が殺した筈の香織が居る。

召喚される前と同じように、其処に居た。

それは俺の知つている香織で、幻だとは思えなかつた。
「清水まで！」

他に清水も居た。

清水も死んだと聞いていたが、当たり前のように生きて居る。こつちは困惑顔で、席でラノベらしき物を読んで時間を潰していた。

「問題はこつちだろうな？」

南雲が居た。魔王南雲だ。

アイツの顔を確認して、無意識に距離を取る。

だが其処に居たのは、召喚前のオタク臭い陰キャの南雲だった。あの魔王とは、全くの別物である。

厨二臭い眼帯や籠手は装備していないし、髪も普通に黒かつた。何だ？ 日本じゃ一般人面して過ごす心算か？！

「は〜い、HRを始めますよ～。皆さん席に着いて下さ〜い」

愛子先生がやつて来てHRが始まる。

さて、これからどうする？ 着席してこの後の事を検討する。状況を把握し切れていないが、動くべきだ。

動かない者に、得られる者は無い。

状況を放置すれば、魔王に何もかも奪われる。

南雲はトータスでハーレムを築いた。これ以上！ 魔王に美人はやらんっ！！

「八重樫と、園部辺りか？」

香織以上の美人と言つたら、クラスでは八重樫か園部だろう。躊躇いは有る。魔王の御膝下で、ナンパなどしたく無いからだ。だが他に当ても無い。

「ワイワイワイ！」

これはリスボーンじやなくて、ループ！！

迷いながらダラダラ授業を受けている内に、昼休憩に入つっていた。其処で見覚えの有る悪夢を、目撃する事になる。

異世界召喚。

あの日と同じ異世界召喚の魔法陣が、教室の床で輝いていた。漸く違和感の根元に気付く。

俺は日本に帰つて来れた訳じやない、戻つて來たんだ。詰りリスボーンでは無く、ループ系の展開。

くつ！高校は、用心してサボるべきだった！！

「ようこそ、トータスへ。

勇者様、そしてご同胞の皆様。歓迎致しますぞ」

魔法陣の輝きが治ると、其処には見覚えの有る光景が広がつていた。

聖教教会の神殿。神山の頂上に在る大聖堂だつた筈だ。

大聖堂に居るのは、白い法衣を纏つた神官共。

今喋つたりーダー格の、爺さんの事も知つてゐる。

俺達を召喚した諸悪の根源！エヒトと言う異世界の神様の下僕。聖教教会の教皇イシュタルだ。

†

補足＆解説枠。

本作は檜山×ノイントの、ノイント物です。

現在構想中の終着点は←となります。

1／エヒト様大勝利ED

死亡フラグ回避の為、魔王南雲の誕生を阻止する。

ユエは魔人族に回収されて、エヒトの元へ！乗つ取り成功。

檜山は使徒となつて、ノイントと世界を巡る事に。

2／エヒト様判定勝利ED

魔王南雲誕生。

南雲パーティーをスルーして、日本へ見逃す。

檜山はやはり使徒となつて、ノイントと世界を巡る事に。

3／原作準拠ED

王都決戦で、イレギュラーとの戦いを決意するノイント。

南雲はヤヴァアイから、手を出すのは止めろ！と檜山。

使徒の使命を果たそうとするノイントを、力づくで止める檜山。

次にノイントが目覚めるのは、エヒトが討伐された後！と言う展開。

02 フラグメント

「詐欺師の答弁だな？」

イシュタルの爺さんの説明を聞くのは二度目だが、改めて聞くと、どう考へても詐欺師の答弁である。

まず俺達を異世界に召喚したのは、エヒトと言う神様の仕業だと明言している。

イシュタルの爺さんや他の神官共は、日本へ帰還する方法何て知らない。

全てが神様の掌つて事だ。

「そうですな。エヒト様も救世主の願い、無下にはしますまい」

日本に帰れない。戦争に参加しろ。

パニックになるクラスメイトを天之河が纏めようとするが、

【戦争に勝てば日本へ帰れる】と、明言していない。

無下にすまい。と言つて いるだけだ。

考慮したけど、やつぱり却下☆と言う理屈が通るヤツだ。

それを今暴露するべきか？↓止めた方が良い。

俺達は今、初見の世界に居る。初期L.Vで常識的知識も無い。

俺は周回中で常識知識が少しはマシだが、

肝心のL.Vは多分1だ。厳しい事に大差は無い。

何の後ろ盾も無く、異世界を生きるのは辛い。

と言うか此処で戦争参加を拒否したら、

即座に処刑！と言うルートも在り得る。

此処での暴露にメリットは無い。

戦争参加を装つて、まずは訓練でレベリングした方が良い。

「戦おう。

人々を救い、皆が家に帰れるように。世界も皆も救つてみせる!!

と天之河が纏めに入っている訳だが、二度目の俺は気付いていた。

異世界召喚の魔法陣は、天之河の足元を中心に輝いていた事を！

この後解る事だが、天之河の天職は勇者。

そして魔法陣は、天之河の足元から展開していた。

詰り俺達は、天河の異世界召喚に巻き込まれたかもしけないって事だ。

「面白そうだが、無いな」

この問題を暴露したらどうなる？

クラスの人気者のイケメンが、一気にクラスの悪役になるかもしない。

逆にイケメンを陥れようとしたって事で、俺が吊るされるかもしない。

興味は有るが、デメリットが酷くメリットが無いに等しい。

クラスがバラバラになつて、戦力もダウンする。

大迷宮攻略前に、完全にアウト！解つてはいたが、イケメン補正がヤヴァアイ。

†

「ぐつー振り出しか!?」

詳しい話しを別室で聞く事になつた。

前回は、メイドさんのおもてなしを受けたアレである。

おもてなしは好いが、爺さんの話しさは無駄に長い。

確かトータスの歴史関連だつたか、

ガチの教会関係者らしく、神様万歳な話だつた気がする。

スキップ推奨だ。二度も聞く気がしない。

テンションが下降していると、即行で結果が出た。

移動中のクラスメイトと、見事にはぐれた。

記憶を頼りに彷徨つて、大聖堂に蜻蛉返りだ。

「シスターか？」

振り出しに戻る。戻つたが、次のイベントは起こつていた。

静謐な大聖堂で、跪き祈りを捧げる人影を捉える。

人影は黒い修道服姿。場所的にシスターだろう。

日本ではすっかり萌えジョブのシスターだが、

実物の黒い修道服は、想像以上に昏い。墓場の喪服のような昏さ

だ。

シスターつてのは、こうも不吉な代物だつたか？

「フラグメント」

俺に気付いたシスターが立ち上がる。

立ち上がりつて振り向くと、確かにそう呟いた。

フラグメント

旗とか条件の？それはフラグの方だつたか。

一檜山大介

「まだ組んでも居ないか」と、勇者のお仲間にて事になる。アンタは?」

ハニカム構造のシス

振り向いて、シスターがフード

フードの下は、死神的な髑髏でも驚く心算は無かつた。

神山に髑髏が闊歩しているのは問題だが、想定範囲内！と言う事に

だが想定は覆される。

シスターの素顔は、圧倒的な銀髪美人だつた。

確実にAPPは18！最大値を記録☆

ある。

「ヒヤマダイスケ。

それがフラグメントの名前ですか、覚えて置きましょう」

このジアタリ
死神処かウアルギリである！」

ノイントが俺の名前を、刻むよう口にする。

ぐつー！APPが高いと、それだけでサマになる。

とても初対面の取り巻きの一人の名前を口にする仕草じやない。

「ハニカムアンド」で言ふのは 何の事だ？

渾名? と言うより、何かの役職名か!?

3

「ああああああああああああああああつつつつつつ」

割り当てられた個室のベッドで悶える。

異世界トータスの、二度目の二日目の朝だった。

ノイントの回答は、要領を得なかつた。

迂遠な語りは、やはり教会関係者だと実感させられる。

その後は前回と同じだつた。

ノイントの案内でクラスメイトと合流して、

神山の景色を堪能しながら下山。滞在先のハイリヒ王国へ入国した。

ハイリヒ王国の国王やら何やら、

お偉いさんとの顔合わせも、前回通り愛子先生と天之河メインで対応した。

その顔合わせで結構可愛い感じの王女様とも会つた訳だが、超絶美人のノイントと出逢つた後では、何の食指も動か無い。最後に歓迎の晩餐会になつたが、特筆する事は何も無かつた。就寝時間になると、一人づつ個室が割り当てられた。

豪勢な話だ。で、夜は明けて翌朝つて事になる。

「今日のメインイベントは、ステータスプレートか。

これは避けられ無いな」

ステータスプレートは文字通り自身のステータスの表示と、トータスでの身分証明にもなる代物だ。受け取り必須である。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

檜山大介 17歳 男 レベル：1

天職：神官戦士

筋力：110

体力：80

耐性：60

敏捷：110

魔力：120

魔耐：120

技能：





信仰 · 洗礼 · 祝福 · 巡礼 · 苦行

不淨耐性・恐怖耐性・魅了耐性・言語理解

卷之三

て配布されたフレートに表示された俺のアーティアが——た

色々とツツニ三處か有るんだが！

ます天職：神官戦士って何が？前回は確か【転戦士】かって答
それに初期ステータスもかなり違う。

このステータス！殆ど魔法戦士系じゃ無いのか？

「天職が神官とか☆」

配布担当の騎士団長のメルドさんも、初めてのケースだと言う始

俺が困惑している内にもプレートの配布は進み、問題の南雲の番が来る。

南雲ハジメ
17歳
男
レベル：1

天職：鍊成師

筋力 : 10

体力：10

而性

每提

魔耐

技能：鍊成・言語理解

- - - - -

来た！南雲のド平凡な器用貧乏ステータスッ！！

前回はこのステータスを見て、散々笑い者にした案件である。

「な、何かな檜山君」

しかしどうやつたらこの器用貧乏ステータスが、あの魔王に変貌するんだ？

確かに魔物の肉を喰つて生き残れたら成れる！って話だつたか？
試したくネエエエツツツ!!!!!!

「まつ強く生きろよ？」

「えつああ、うん」

ポン、と肩に手を置いてそう応える。

何を言われるかと身構えていたらしい南雲は、呆然としている。

勿論未来の魔王様をイジメたりしない。それは自殺行為だ。

「技能検証とレベリングを始めるか、精々死なないように」

†

補足＆解説枠。

ノイント初遭遇と、ステータスプレート配布回です。

天之河の足元の魔法陣

原作展開。恐らく異世界召喚されたのは天之河一人。

異世界召喚時にこれに気付いて、

かつ黙殺したクラスメイトが何人居るかな？と想像すると、
この後の天之河のピエロ具合が、更に酷くなる☆

フラグメント

直訳で【破片】【断片】【断章】。

原作ではハジメが【イレギュラー】と呼ばれていますが、
本作では檜山が【フラグメント】と呼ばれる事になります。

原作のラストで敗北したエヒトが、

自身が敗北した結末を覆す為、必要なフラグを召喚した！と言う設定。

APP

TRPGで容姿、または外見的な魅力を表すステータス。

キャラメイク時に3D6のダイスで決定。最大値は18、最小値は

3になる。

TRPG

ゲームのプレイに友達が【必須】なりア充ゲーム。
必要な物は紙とペンだけ！と言う謳い文句は有名ですが、
某TRPG紹介動画で、必要な物【友達】。
とコメントが付いていたのは爆笑しました☆

神官戦士

本作の檜山の天職。原作では軽戦士。
エヒトの力でループした周回檜山は、その影響を受けています。
神の力の適正が生えました。↓天職が神官戦士に！

魅了耐性

香織を諦める要因にもなった技能。

耐性がありながらノイントに惚れる辺り、

檜山本来の弱耐性が窺える展開☆

ステータス／技能

本作では基礎技能を非表示にしています。

03 死亡フラグと呼ばれているのでは？

「早朝から毎朝トレーニング！」

「だあああつっ！！！ 檜山。お前がこんなに真面目なヤツだとは知らなかつたぜ」

付いて来るんじやねえつつ
!!!

背後から坂上が追走して来る。この脳筋がああつつ!!!

と云つして、こゝなつた!

異世界トリダスに召喚されて勇者二三の仲間によってこの戦功が

勇者とその仲間としての活動が始った
ミツは実戦前の訓練期間と言ふ事で、

メルドさんや騎士団に、色々と指導を受けている最中だ。

と言つても俺は二度目で、何故かステータスも前回より高いスター

卷之三

毎朝神山の神殿までのランニングコース。勿論ただのトレーニングじゃない。

ノイントは聖教教會のシヌヌード。

しかも神山の神殿から、殆ど出歩く事が無いらしい。

俺達は麓のハイリヒ王国に滞在しているのに、接点が無い。

だが修行や巡礼目的なら、入山出来るらしい。

「是非ともエヒト様の御許で修行させて下さい!!」

勇者の仲間の修行！つて事でゴリ押しした。

花柳二公歳の仲達勢、得にいふ事無し。

だが早朝のトレーニングは、脳筋の坂上に気付かれた。

坂上も早朝からトレーニングをしていたのかもしれない

脳筋如き振り切つて、俺はノイントに逢う！

「素晴らしい心掛けですな」

全力で脳筋を振り切つて、神山を登りきる。

頂上の神殿で、御参りするのもいつものパターン。

しつかし今朝はハズレ！

上機嫌な面でニコニコと俺を出迎えたのは、イシュタルの爺さんだ。

爺は要らんから、ノイントを出せノイントを！

と言いたい処だが、この爺さんは聖教教会のトップ。

教会所属のノイントと仲良くなるのに、媚びを売つて損が無いのは解つている。

「感心です。

今朝も来ていたのですか？」

「修行だからな、当然だろう？」

今朝はハズレかと思つたが、爺さんの後ろから本命降臨☆よつしやああああつっ！！ノイントに逢えたつっ！！

今朝はガチの、御参りが出来そうだ。

俺は神山への早朝ランニングが終つたら、
毎回神殿で御参りをしている。その内容は、

「ノイントと仲良くなれますように】

【五体満足で居られますように】【日本に帰れますように】とかだ。
特に最初のが叶うなら、

相手が神様だろうが悪魔だろうが、諸悪の根源だろうが構わない。

「フラグメント。

もう実戦が近いのでしたね？」

「ああ、オルクス大迷宮つて処で魔物退治だ。

冒険者の真似事をするらしい」

ノイントが口にする俺の渾名。

フラグメントと呼ばれる理由は、未だに解らないままだった。
だがノイントに渾名で呼ばれるのは俺だけ！

今はそれで良しとして置く事にした。

女が意味不明の渾名で呼ぶのは、日常風景である。

「教皇猊下。

フラグメントに託そうと 思います」

†

「これってレアモノじゃね？」

ノイントがイシュタルの爺さんと何か話を進めて、奥の部屋に案内される。

其処は見る限り武器庫だつたが、

天之河の聖剣がサーダガの如く鎮座していた武器庫とは違つて、博物館の骨董品でも眺めている気分になる。だけどそれは違つた。

絶対に只者じやネエエエツツツ!!!!と解る代物!

「はい、聖遺物です。

銘は【祈りの剣】

それは一振りの剣だつた。

ジャンル的には【処刑剣】と言うヤツだろう。

剣先が平たくて、突きが出来無い。

不良品でも模造刀でも無い。斬撃特化の剣！と言う事になる。ひたすら斬撃で罪人の首を狩り続けた。

処刑剣とは、そう言う武器だ。

しかも聖遺物！どんだけ生き血を吸つて来たんだよつ!?
もう魔剣だろ!?ヤヴィオーラを放つてる気がするしつつ!!?

「何でこんな（ヤヴァアそくな）代物を？」

「餞別です。

神官戦士のフラグメントなら、使い熟せるでしょう」

本気でこんなヤヴァアそうな代物を？

ノイントが言つて いるのは、神官戦士の【信仰】の技能の事だろう。

信仰の技能は、神官系の天職の基礎技能。

信仰心を集めて、ステータスに自己ブーストする技能だ。
オタクの南雲が愛読しているだろうラノベなら、中盤辺りで敵に回つた神官系のキャラが、

信者の信仰心を集めて中ボス化するアレである。

そんなに強いなら、勇者何て要らないだろ？自分で戦えよ！ってやツ。

ノイントが言うには、この剣 자체が聖遺物！信仰の対象となる。詰り、後ろにゾロゾロと生贊用の信者を連れ歩く必要は無い！と言ふ事だ。

「確かにステータスが、ブーストしてる感じだ」

「問題は無いようですね？」

ステータスは確かにブーストしている。

俺が知っているオルクスの魔物相手なら、遅れば取らないだろう。と言つても、文字通り俺が知っている範囲の話だ。

オルクスの攻略者。魔王南雲の情報では、

上層100層。下層100層の、全200層で構成されているらしい。

特に南雲が墜ちた下層からが本番！ナイトメアルート☆奈落の捕食者共に、俺の力が通用する保証は無い。

それにそもそも！この程度の力で、

あの魔王に届く事は絶対に無い。絶対にだ。

「なあノイント。

オルクスから戻つたら、出られ無いか？」

例え魔王に届かなくとも、大幅な生存率UPには違ひ無い。

気付いた頃には調子に乗つて、ノイントにデートのお誘いを実行！

凄い微妙な顔をされた。まだデートのお誘いは早かつたか！？

それともシスターはデート禁止！とか言うパターンか！？

「宜しいのですか？」

フラグメントの故郷では、死亡フラグと呼ばれているのでは？」

†

「今まで済まない。ワビを入れさせてくれるか？」

南雲は、俺が護るつつ!!!

「檜山君つつ！」

オタクな南雲は、やはりチョロかつた。チョロインレベルである。

俺が今までのイジメの件で謝ると、あつさり謝罪を受け入れた。

報復も無い。実に平和的だつた。

これが魔王なら、確実にチート武装の報復が来るだろう。現代無駄知識の武装をしていたノインントの誤解も解いて、無事！デー^トの約束をした後日。遂に実戦訓練が始つた。前回同様ホルアドへ向かう。其処にオルクス大迷宮が在る。

大きなターニングポイント！俺に取つても、南雲に取つてもだ。ホルアドに着いたら、パーティーを組む事になる。

まだ初見だから、天職を意識した構成の指示は無い。まずは自分達で考えて、自分達で苦労しろ！つて言う騎士団の方針らしい。

と言う訳で俺は南雲に謝罪して、パーティーを組む事にした。辺りではクラスメイトが、

香織や八重樫辺りが、俺の謝罪を聞いて特に驚いている。

と言うか驚いてるのは、クラスメイトの殆ど全員だつた。

勿論この謝罪は、純粹な代物じやない。

これは、魔王南雲の誕生を阻止する策略だ。

魔王南雲が生まれたのは、俺が南雲をオルクスの奈落に墜とした事が原因！

なら俺が、南雲を奈落に墜とさなければ済む話だが？

代わりに何か、アクシデントが起きる可能性も有るだろう。

だから俺は、直ぐ近くで南雲を護る事にした。

オタクの南雲はチヨロイから、上手く行くと思つた。

問題無く南雲とパーティを組む事に成功する。

「僕も、混ぜて貰えるかな？」

「清水君！」

勿論構わないよ？檜山君は――

「ああ、俺も構わない」

計画通りの好スタート！

だが此処でどう言う訳か、清水がパーティーに名乗り出て来る。

清水は南雲と仲が良かつたか？

清水は南雲と同じくボツチ系だつたが、特に仲が良かつた印象は無

い。

前回清水は、魔王南雲に殺されている。

銃殺。魔王自慢の銃でズドン！

魔王南雲相手に、全力で逆らった結果だ。

魔物に生きたまま喰い殺された俺より、まだ楽な死に様である。

「あら、それなら私達も行くわ。

構わないでしよう？」

「どうして俺に訊く？」

清水の参戦を聞いて園部と、取り巻きの菅原と宮崎も名乗りを上
る。

これで六人！パーティーメンバーは揃つた。

今のは明らかに清水狙い。

園部は清水と、何か接点が有つたか？

確かに高校で席が隣りだつた気はするが、それだけだ。

やはり仲が良かつた印象は無い。

前回の話なら、一応接点は有る。

確かに清水と園部は、パーティを組んでいた筈だ。

だが前回の話を出しても、やはり意味は無い。

それに重要なのは、南雲の護衛だ。

清水が誰と仲が良くて、別にどうでも良い。

†

補足＆解説枠。

檜山強化回。現地LVの強化です。

神山の修行

神山には例のエレベーターが有りますが、

アレは王国の高官と、緊急用！と言う本作設定。

勇者は王国のVIPです。

祈りの剣

形状の採用で迷つた一品。

大型の魔物相手なら、貫通効果の有る槍にしようかと迷いましたが
？

檜山は元軽戦士なので、使用経験の有る剣に決定。因みに槍の名前は【裁きの槍】と言う予定でした。

死亡フラグ

帰つたら○○しよう！と言うお約束。

ノイントが死亡フラグを知っていたのは、

使徒として、地球（日本）にも降臨した経験があるから。と言う設定。

04 ちつぽけ何かじや無い

「アアアアアアアアアアアアアアツツツツツツツツ!!!!」

「悲鳴!？」

誰かの悲鳴が聞こえる。断末魔の声。

酷い拷問でも受け続けているかのようだ、悲痛な声だ。

その上聞き覚えがある氣もしたけど、ピックアップは閃かない。他人の不幸に構う余裕が無いからだと思う。

僕は南雲に撃たれた。撃たれて死んだ筈。

ゼロ距離で額を撃ち抜かれた。脳に風穴が！つてヤツ。

クリティカル回避で、ブレインスルーショットとか？無い無い☆

「それに此処は、日本の僕の部屋？」

幻覚オチ？それとも最期の走馬燈!？

それでも僕は冷静に、自分の部屋らしき場所を探索した。

PCを起動させて、

動画サイトで初見の推しアニメを堪能し終えた辺りで、これがリアルだと認識する。此処は日本の自宅だ。

「日本に帰つて來た？」

それとも逆行展開!？

日本に帰つて來ただけなら、僕が生きて居るのはオカシイ。南雲に撃たれた傷が無い。

奇跡的にブレインスルーショットだったとしても、これは無い。死がトリガーになつて、日本に帰つて來た？

デスマーチでリスボーン？だけど試す気にはなれない。

「これから、どうする?」

今日が平日なのは把握している。

いつもなら、もう登校を始めている時間だ。

異世界召喚何て言う非日常を経験した後から、香気に登校しろと？

「情報収集つて事で、仕方無い」

他に出来る事も無い気がして、結局登校する事にした。

もう見慣れた筈の高校には、異様な光景が広がっていた。

だけど異様だと認識しているのは、僕一人るのが濃厚。教室は始業前の喧騒で満ちていた。

何事も無い平和な朝。争いの無い平和な日常。

魔物何て居ないし、戦争に強制参加させられる事も無い。平和な日本の高校。見厭きた筈の、懐かしい光景だった。

「帰つて、来たのか？」

自分の席に着席する。

正気を保つ為に、無意識に日常を演じていた。

押しのラノベを取り出す。だけどラノベのページが進む事は無かつた。

「おはよう、清水。

珍しい。清水つてラノベ、読むんだ？」

ああ、そうだつた。僕は教室でラノベは読まない。

同じ愛読者の南雲が、クラスでイジメられているのを知っているからだ。

南雲はオタクだの、根暗だの言われてイジメられている。ラノベの読書がイジメのトリガーになる事を恐れて、

僕は教室で読書を控えていた。だけど、

「ありふれた趣味だよ。

好きな事を隠すのがバカらしくなった。それだけの事」

「ふうん。

良いんじゃないかな、ソレ」

隣りの席の園部に声を掛けられるのも、話しをするのも珍しい。まして園部の笑顔を目撃するのは、更に珍しい。

しかもその笑顔が僕に向けられるのは、

経験値の高いメタルなレアモンスターが、逃走しない程珍しい。たつた今教室でラノベを読んでいるのは、
イジメグループの檜山達が、怖くなくなつたからだ。

原因は言うまでも無い。魔王南雲！ アイツに殺されたから。
魔王と比べれば、檜山達はザコモンスターに過ぎない。
極度の恐怖で、耐性が出来た感じだ。

此処がトータスなら、

きっとステータスプレートに【恐怖耐性】とかが生えていると思う。

+

「ちょっと何なの!?」

「園部つつ!!!」

異世界召喚前の、平和な光景が広がっていたから油断した。油断して、まんまと異世界召喚の魔法陣に捕まつた。

次に広がつたのは見覚えの有る神山の神殿と、勇者を迎える神官。僕達は、またトータスに召喚された。

「清水?」

「ああ、ゴメン」

「謝らないで、

私を助けようしてくれたんでしよう?」

僕は咄嗟に、隣りの席の園部を助けようとした。

園部の手を取つて、突然教室に展開した魔法陣から脱出しようとした。

だけど間に合わなかつた。園部の手を離す。

その後は僕も知つてゐる光景が続いた。

教皇イシュタルの詭弁と、天之河の偽善者トーグ。

でも僕が口を挟める事は何も無い。

現状日本に帰る手段が無い以上、勇者とその仲間!と言う手札を捨てるのは厳しい。

結局戦うしか無い。何の準備も無く、

魔物が闊歩する異世界に、放り出されるよりマシだと思う。

「これから、どうなるのかな?」

「戦争に参加するフリをして、戦闘訓練を積むしか無いんじやないかな?」

手に職つて事。日本より格段に危険なトータスで、身を護る力は必須になる」

「清水はこんな時でも、しつかり考へてゐるんだね?」

私は不安で、これからどうしたらつて思つてゐただけなのに」

「それで、普通のLVだと思うけど」

異世界召喚された夜。

割り当てられた個室に、園部が訊ねて来る。

高校では女子の一グループを作る程の、コミュ力の園部が力無げだった。

流石の園部も異世界に来て、これからが不安何だと思う。

二度目の僕が随分頼りに見えるらしい。前回は、誰かに頼られる事何て無かつた。

「清水！どう？」

「まあ、問題無いんじやないかな？」

それから、園部と過ごす事が増えた。

一人で過ごす事が通常運営の僕に取つて、それは新鮮なルートだった。

翌日になつて配られたステータスプレートにも、異常は無い。無い筈だ。

|||||||

清水 幸利 17歳 男 レベル：1

天職：闇術師

筋力：40

体力：50

耐性：40

敏捷：120

魔力：200

魔耐：150

技能：

闇属性適正・闇属性耐性・魔封結界・サクリファイス・魔獣使役
毒耐性・疾病耐性・恐怖耐性・言語理解

|||||||

前回と比べて、明らかにステータスが高くなつていた。

技能も前回より多くなっている。周回プレイだから？
その割には、LVは1に戻っていた。

「清水」

「園部。眠れないの？」

「うん、

明日からとうとう実戦だと思うと、ちょっとね？」

戦闘訓練を積む日々を過ごして、遂に明日から実戦！
ホルアドのオルクス大迷宮に潜る。

ホルアドで一泊してから、と言う流れだ。

ホルアドでパーティー編成もする事になつたけど、
僕は南雲が居るパーティーに入つた。

動機は決まつていて。魔王誕生を阻止するのが目的だ。

あのベヒモスやトラウムソルジャーの襲撃。

殿に残つた南雲を援護すれば、撤退が間に合うかもしない。

そうすれば南雲が奈落に墜ちる事もなくなつて、魔王も生まれない
筈。

不用意にドロップアイテムに手を出した檜山も気になるけど、
異世界に来てから、檜山は大人しくなつた。

少なくとも、南雲をイジメている様子が無い。

隠すのが上手くなつた。と言う事も無いらしい。

リーダー格の檜山が大人しいから、他の三人も大人しいモノだつ
た。

だから檜山が公衆の面前で、南雲に謝罪したのは驚いた。

クラスメイトの誰もが驚いたと思う。

この檜山の改心に付いて、僕はとある予想を立てた訳だけど？

今は良いだろう。宿泊先のサロンで佇む園部に近づく。

「心配は要らない。

大迷宮では、僕が前に出る。園部は後方警戒と援護に徹してくれれば良い」

「清水！本気なの!?

闇術師つて、後衛向きの天職でしよう!?

それで前に出る何て！正氣！』

確かに闇術師は後衛職。だけど、僕は敏捷が高い方だ。
俗に言う【回避盾】が行けると思つてゐる。

「僕は英雄願望持ちの身の程知らずだからね？」

前に出る。

勇者じや無いから世界を、人類を護るとは言わない。
だけどパーティーの一人や二人なら、護れると思う」

†

「護つて、くれるの？」

結局、そう言う事何だと思う。

明日から私達は、命懸けの探索を始める。

ついこの間まで平和な日本で過ごしていたのに、魔物とだつて戦う。

戦い。実戦。命の奪い合い。死ぬかもしれない現実。

そんな明日が待つてゐるのに、

清水は私を、仲間を護ると言つてゐる。

「身の程知らずだから、勇者じやないから。

ちっぽけだから、やれると思う」

そう言つた清水は寂し氣で、挫折感を強く滲ませていて——
だけど私には、酷く届いた。

「ちっぽけ何かじやない。

清水は、ちっぽけ何かじや無いよ」

†

補足＆解説枠。

清水逆行のダイジエスト回になります。

ブレインスルーショット

人間の脳には右脳と左脳の間に隙間が有つて、丁度其処が額の位置。

運良くその隙間に弾丸が貫通すると、額に風穴が開いても生還するらしい。

しかしハジメのドンナーでブレインスルーショットが起きたら、

その威力で脳が、容易くミンチになりそうです☆

デスルーラ

ゲームオーバー（全滅）時にセーブポイントに戻る仕様を、移動手段として活用する最終手段。

全滅時にセーブポイントからやり直す仕様の場合は、実行不可。実行可能な場合もアイテムロストやレベルダウンなど、厳しいペナルティが課せられる事が多く、多用は厳禁となる。

清水逆行

エヒトが檜山を逆行させた際に、

同じ【日本人】と言う枠組みで巻き込まれて逆行。
本作では清水が、正しく【イレギュラー】と言う立場になる。

回避盾

通常の盾役（タンク）とは異なり、

ヘイトを稼ぎながらも、攻撃を回避し続けるタンク。

基本的に紙装甲。回避に失敗したら即死！と言うパターンも多い。

園部優花

清水の、最後の良心的ポジション。

英雄願望持ちだった清水は、ハジメに敗れて挫折！
分相応に小さく纏つて、小康状態を保っています。

05 園部を日本に帰してやりたい

「どうでも良いが、意外だ。

実戦前の約束。主人公キヤラか!?

「それは違う。まして主人公でも無い」

実戦前夜。

何と無く宿泊先を徘徊していたら、サロンに清水と園部が居た。
二人は何かシリアルス顔で話していく、
暫くして園部が微かに笑顔を浮かべながら退室。
どうやら清水は、上手くやつたらしい☆（憶測）
「まあ丁度良い。

確認させて貰うけど、【戻つて】来たのか?』

戻つて、か。間違い無くこのループだか逆行だかの件だろう。
それを認識していると言う事は、清水も!

「まあな?」

「なら、檜山が黒幕?」

「自分も信じて無い事を、態々訊くなよ。

んな事が出来るなら、もつと盛大にやり直して
もうその気は失せたがもつと前なら、

香織を手に入れようとして、派手に逆行したかもしね
まあ何にしても、この件の首謀者は俺じやない。

好き勝手にやり直し何て、都合の良い事は出来無い。

「それなら何を?」

檜山は、明らかに前回と違う行動を取つていて
「同じ行動を取つて、同じ失敗を繰り返せつてのか?

それはただのマヌケだろ!

まずは魔王の誕生を阻止する。これは絶対だ

「ああうん。それは解る」

清水も魔王に殺されてるからな、此処はあっさり同意して来る。
利害の一致つてヤツだ。考える事は同じらしい。

「なら、まずはオルクスだ。俺達で南雲を護衛する。

それで良いな?」

清水が無言で頷く。

良し良し。一人より二人の方が、出来る事が増える。幸先が良い。

「逆行の記憶は大きなアドバンテージになる。

他にも何か目的が?」

「他の目的?」

「凄い美人を口説く」だな』

「〔日本に帰りたい〕ではなくて?」

「日本でやり残した事でも有るのか?」

俺は無い。美人を口説く方が重要だろ』

「思い切りが良過ぎる。

確かに僕も、無いと言えば無いけど

「それでも帰りたい。か?」

「言葉にするなら、故郷だから。

日本の方が平和だから、過ごし易いからって事になる』

ふと邪推が胸を過る。

他に目的は無い。と清水は言うが、

確かに目撃した園部の微笑みが、邪推を象つて零れた。

「〔園部を日本に帰してやりたい〕。とかは無いのか?」

†

「本気何だな。

闇術師つてのは、後衛職だろう?」

「園部にも言われた。だけど立派な戦闘職だ。

南雲は生産職で、女子も後衛職。

此処は男の戦闘職が、前に出るシーンだろう

「まあ否定はしない」

オルクスの探索が始った。

六人づつのパーティーで大迷宮を探索して、地下に続く順路を開拓する。

上層だけでも100層だ。分担した方が早い。

「当然の結果だ」

「確実に掘り出し物だな？」

と言つても、こんな浅い階層で苦戦する筈も無い。

充分に訓練は積んだし、

65層までは人類の踏破階層で、事前に見取り図も手に入る。何より俺達に取つて、オルクスの攻略は二度目だ。

更に祈りの剣の性能がヤヴァアイ。ノイントは流石である。

「凄いよ！ 檜山君っ！」

「まさか檜山が、意外だわ」

後方メンバーの視線が熱い。

しかし園部は、清水の活躍が見たいだけでは？

「清水！」

「任せろ」

次の魔物が早々に姿を現す。コボルトの群だ。

祈りの剣の高性能さに調子に乗つて、一人で戦い過ぎたか？
息を整える時間が欲しい。此処は少し、清水に任せるか。

「棘舞【サイレントソーン】」

清水が前に出て何か魔法を放つと、コボルトの群が崩れ落ちた。
崩れ落ちてそのまま悶え苦しみ出して、やがて静かになる。

「エゲツネエなあ、ヲイ」

「この魔法は効果の割に、コスパが良い。

毒耐性の無いザコ相手なら、効果が望める」

名前からして、棘だか針だかを飛ばす魔法だろうとは思う。

だが俺は視認出来無かつた。清水の解説では、

影のような黒い棘の魔法らしい。それを薄暗い迷宮内で使つた事になる。

魔物相手に情けも容赦也要らないが、何とも殺意マシマシである。

清水は戦闘方針に付いて回避盾がどうこう言つていたが、
防御無用の無双風景を披露していた。清水もまだ、苦戦何てしな

いつて事だ。

「毒耐性つて言うと——」

「ゴーレムとかアンデットには、確定で効かない。

フレツシユゴーレムなら、行けるかも知れない」

「フレツシユつて、殆どアンデット扱いじゃないのかな?」

「だからかもだよ。

後は金属製の、ロボットとかだ

「トータスで、ロボット何て居るの?」

「ならオートマタで、これなら居るかも知れない」

「オートマタか、ロマンだよネ☆」

清水と南雲が、オタクトークで盛り上がりがっている。

ヲオイ清水! 蚊帳の外の園部が、ヤヴァアイ感じだぞ?

「ヨイ! 園部ツツ!!」

「ツツ!!」

楽勝ムードで、気を緩め過ぎた。

後方から別のコボルトが襲い掛つて来る。奇襲だった。ターゲットは園部だ。

後衛組は突然の出来事に硬直していたし、南雲は間に合わない。俺は信仰を使ってブーストダッシュで決めようとした訳だが、「操影」「シャドウサーヴアント」

清水の魔法の方が速い! そして今回は、俺の目でも見えた。影が伸びる。清水の影が意志が在るかのように伸びて、園部に奇襲を仕掛けたコボルトの、影を斬り裂いた。影を斬り裂かれたコボルトは、影と同じ末路を迎つて柘榴になつた。

「無事か?」

だから後方警戒を頼んだ訳だが

「ごめんなさい。私が――」

「いや、園部が無事で良かつた」

「清水」

うん、今度の蚊帳の外は俺達である。
空気を読んで、他の連中と周囲の警戒に入る。

「うん。これが、

【お前等! 結婚しちやえよ☆】 つてヤツなのかな?】

「知らん」

+

「清水。何をしているの?」

「技能検証。試したい事が有る」

オルクスの探索は続く。

最も優先すべき身を護る戦闘技能は、充分検証したと思う。
少なくとも次の30層のゲートまでは、戦闘で後れを取る事は無い
だろう。

なので特殊技能の検証に入りたい。

「それって、さつき倒したコボルトでしよう?」

「ああ、威力を調整して瀕死に止めている」

「えつまだ生きてるの?」

「検証だから」

今日の前に倒れているのは、探索中に撃破したコボルト。
そのコボルトを一体だけ、棘舞で瀕死に止めた。

【魔獸使役】の技能を検証しようと思う。

この技能は、文字通り魔物を従える事が出来る。

前回はウルの町で、スタンピードを起こした要因にもなった技能
だ。

「良し、手応え有り」

上手くコボルトを使役出来た。

前回と変わりは無いらしい。問題無く【格下】の魔物を従えられる。
確率の幸運では無く、実力を問われる技能だ。

【暗黒回帰【ネガティブヒール】】

「清水って、回復魔法も使えるんだ?」

使役したコボルトを運用する為、回復魔法を施す。
因みにこの魔法は、闇属性の回復魔法だ。

確かにHPは回復するが、回復だけなら光属性の方が効率が良い。
暗黒回帰【ネガティブヒール】は、

アンデットのダメージも癒す事が出来る負のヒールである。
そもそも通常のヒールは、

アンデットを始めたとした負の存在を傷付けてしまう。

暗黒回帰【ネガティブヒール】は、そんな負の存在を癒す特殊なヒールだ。

と言つても今回癒すのは、通常のコボルト。

特に問題無く、コボルトは復帰を果たした。

「凄い。これで頼もしい味方が！つて事？」

「いや、それは無い。

知つての通り、僕達は充分に強い。

肉壁になる機会は有つても、通常のコボルトが戦力になる事は無い

「それならどうして？」

園部の疑問は当然だろう。

だけどコボルトの使い道は他に有る。

まずコボルトは獣系の魔物で、嗅覚が優れている。

戦闘より索敵向きだろう。斥候役と言う訳だ。

「清水の言う通りだつたな？

まさかザコのコボルトにこんな長所が

「言つただろう？斥候向きだと」

それ以来、コボルトを先頭に立たせた。

自慢の嗅覚で、コボルトは真っ先に襲撃に気付いた。

「これつてトラップ？」

「罠にも気付いたの？」

「良し良し、良い調子だ」

その上このコボルトは、仕掛けられたトラップも看破した。

迷宮内の違和感を感じ出来るらしい。これは素晴らしい誤算。

「何だか随分頼りになつた気がする。

名前。付けてあげたら？」

「名前か」

園部からの提案。

短い間に、随分と仲間意識が芽生えたらしい。

それにして名前か。

実は僕は、名前を付けるのが好きだったりする。
と言つてもペットに付ける名前では無い。

名無しのヒロインに付ける名前だ。

そう！これは趣味のゲームの話。

多くのゲームをプレイすれば、名前の無いヒロインと出逢う事もある。

そして、プレイヤーに選択が委ねられる事も！

大抵のヒロインは名前を付けると、とても喜んでくれる。
僕は、そんな名付けイベントが大好物だった。

「なら【フェエリエル】だ」

【フェンリル】だと有名過ぎるから、適当に弄った結果だ。

同じ狼系でも遙かに格下のコボルトには、過ぎた名前だろう。これで良い。

「フェエリエル？」

「何か嗅ぎ付けたな？」

これはアレかもしねないな」

名付けが終つた後も探索は続く。

斥候を務めるフェエリエルが、鼻をヒクヒクさせていた。

これは何かを嗅ぎ付けた合図だ。僕はそれに心当たりが有る。

「行こう。臨時収入の時間だ」

†

補足＆解説枠。

オルクス大迷宮探索パート。まだ低層です☆

フレツシユゴーレム

数多く存在する○○製ゴーレムの、バリエーションの一つ。
フレツシユとは、死肉製ゴーレムの事。殆どアンデット。
製法がゴーレム系統なだけ。アンデットにしか見えない。

オートマタ

自動人形の事。オートマトンと言う場合も有。

オートマタは個人的な押しヒロイン種族☆大好物です。
コボルト

最近のファンタジーでは、定番ザコモンスターはゴブリンですが？
私の推しザコモンスターはコボルトです。

06 はぐれなメタル

「此処の壁、色が蒼い」

「鉱脈だ。稀少金属コバルトの。

ファンタジー風に言うと、腐食銀【コバルト】

フェエリエルの案内で発見したのは、やはりコバルトの鉱脈だつた。

コボルトの設定は、トータスでも有効らしい。

「腐食銀【コバルト】？」

「名前の通り、腐食した銀だと言われている」

コボルトは穴倉に棲息する魔物だが、

コボルトが出たら、銀脈が近くに在る！と言われる程。

それだけコボルトは、銀脈に棲息している確率が高いらしい。

そしてコボルトが棲息する銀脈で、コバルトは採掘される。

コボルトには銀を腐食させる能力が有る。そう信じられた。

と言うのがコボルトとコバルトの設定だ。

僕達は異世界に来て居る訳だけど、こうも設定通りの展開になると
は！

「と言う訳で臨時収入だ。

採れるだけ採つて行こう☆

「採掘するの!？」

と言つても素人の僕達が採掘する訳じやない。

経験は勿論、道具も無い。これは如何にも無謀な挑戦だろう。

まさか武器で掘る訳にも行かない。工夫を雇うのも無い。

実戦訓練の必要経費以外の、プライベートで動かせる資金が無い。

必要な資金は、随伴する騎士団が管理している。正にお子様扱いで
ある。

「フェエリエル！」

「ああそつか、フェエリエルに」

採掘はフェエリエルに任せることにする。

後は待つだけで、稀少金属が手に入る。一財産ゲットだ。

「呑気に採掘していく大丈夫なの？」

他の皆は、大迷宮を探索中なのに

「少し道に迷つた事にすれば問題無い」

清水。

「お金に目が眩んで無い?」

「金は大事だろ。金=行動力。

金が有れば出来る事が増える。選択肢が増える!と言う事だ。

今は探索の費用も生活費も王国持ち。

これでは国からの依頼を断り辛いし、

断つて費用を取り上げられたら、干上がつて死ぬ。

金は、活動資金は絶対に必要だ』

「うう、社会常識が重いつつ!!!」

結局は召喚当初の問題に戻つてしまふ。

だが!もう僕達は無力な異邦人では無い。戦う力が有る。自分で身を護れるし、恐らく自分で働いて金も稼げる。

行動を自分で選べる!

必ずしもハイリヒ王国に、聖教教会に従う義理は無い!と言う事だ。

「その為の採掘?」

「そう!この手に自由を掴む。

職業選択の自由って事」

勇者の仲間とか言うブラック企業は退職して、

冒険者でも始めよう!ファンタジーの弩定番である。

何よりあの教皇はアウト。信用出来無い。

上司にしたくない人間の見本LVだと思う。

「フェリエル?」

「そう全てが上手く行かないか」

命令通り採掘を続けていたフェリエルが、警戒モードに入る。

命令終了前の行動変更。警戒モードへの移行。これは襲撃の兆しだ。

「中ボスのお出ましか、それともエクストラクラスか?」

「大きい」

鉱脈の奥から現れたのは、大型のコボルトだ。

主人公とヒロインの相乗りが出来る程の巨体だつた。

当然ながら乗れる事と、乗せてくれるかどうかは別問題である。

コボルトロード（仮）は、既にテリトリーを侵した僕達に殺氣を放つ

ている。

敵対認定確定！と言つた処だ。

或いは同族のコボルトを使役しているのが、気に入らないのかもしれない。

フェリエルにも同様の殺氣を放っていた。

「悪いけど、コバルトは頂いて行く。

「悪いけど、コバルトは頂いて行く。

「悪いけど、コバルトは頂いて行く。

†

「何かテンション→→だな？清水」

「すっかり置いて行かれた感が有るよね？」

と言う割には、檜山も南雲も文句一つ無く戦闘態勢に入る。

既に文句を言つて、どうにかなる状況では無い事を悟つているからだ。

「奥から、また」

園部の悲痛な声。

眷属と言つた処だろう。奥から通常サイズのコボルトが、次々と姿を現す。

取り巻き付きのボス戦！と言う事か。

「鍊成→【ダウンフォール】」

取り巻き付きのボス戦では、

大抵の場合、素早く取り巻きを処理してボスに挑む事になる。

南雲はそれを良く解つている。南雲の鍊成で、即席の落し穴が出来る。

取り巻きのコボルトが面白い位に嵌つて、行動が阻害される。

「曲がって！」

動かない的に園部と、菅原と宮崎の攻撃が突き刺さる。

特に園部の攻撃は、ホーミングシユートと言う投擲術だ。

文字通り投擲したナイフが、側面からホーミングしてコボルトの耳辺りに刺さる。

骨の薄い側面を、正面から狙つた攻撃。ナイフは脳まで達している筈。

「ボス戦に手加減は要らねえっ!!

【信仰】！力を貸せつつ!!!

沈黙した取り巻きを突破して、檜山が斬り込む。

技能を使用したらしい檜山の動きが、いつもとは違つた。自己ブーストなのか、巨体のコボルトロードをズバズバ斬り裂いている。

そしてあの祈りの剣の性能も、相変わらず規格外だ。

ゲーム基準で言うなら、明らかに登場時期が早い。

【極天蝕】[エクリプス・ゼロ]

檜山が前線でヘイトを稼いでいる内に、いきなり大技を放つ。

危険を察したコボルトロードが、

檜山から強引に離れて退避しようとしたが、それは悪手だった。檜山を下がらせる手間が省けた。

闇で光を遮断して、偽りの蝕を生み出す冷凍魔法。

コボルトロードの退避は間に合わず、片足が蝕に囚われて碎け散つた。

片足で済んだのは称賛に値する。だけど足の部位欠損は致命的だつた。

「おらあつつ!!!

片足を喪つた激痛に怯むコボルトロードに、檜山が追い打ちを掛ける。

勝敗は殆ど決したと言つて良いだろう。後一太刀で、コボルトロードは沈む。

「ナンノマネダ、ニンゲン」

「喋った!？」

僕は檜山の、最後の一撃を止めた。

そして片言ながら口を開くコボルトロード。

園部は驚いていたが、そう言う事も有るだろう。その方が都合が良い。

「ナサケヲカケルツモリカ、コロスマデモナイトデモ？」

「此処で殺すより、

これからもコバルトを作り続けてくれた方が、都合が良い。
採り尽くすのはアウト！と言う事だ」

「流石は清水。エゲツネエ」

エコだと言つて欲しい。

森の木を全て伐採するのは、アウトなのと同じだ。

コボルトロードはこちらの理屈を理解出来無かつたようだが、
今回は退き下がつた。勝者の特権である。

「危な氣無く圧倒出来た。良い塩梅」

†

「清水？」

「どうやら伏兵らしい。何か居る」

大量のコバルトを手に入れて、上機嫌で探索に復帰する。
だが斥候を務めるフェリエルから、警告の報告が上がる。
どうやら伏兵が居るらしい。伏兵！待ち伏せを仕掛ける新しい魔
物。

「コイツはつつ!!」

「うわっグロッ?!何なのコレ!!」

フェリエルが看破した伏兵は、ゲル状の魔物だつた。

金属を思わせるメタルカラーで、ウネウネと蠢いている。
園部はアウトらしく、顔色が悪い。

「うおおおおおつっキタ――（ア。）――!!

ファンタジーの超弩定番のスライム！しかもコイツ、はぐれなメタルか！？」

「えつ本物！」

「えつどうしてそんなに盛り上がつてるの!?」

何かはぐれなメタルっぽいスライムなので、そのまま呼称する。
だがはぐれなメタルの割には、逃げる気配がしない。

異世界のメタルは逃げないのか!?何て素晴らしい展開!

と思つていたら、はぐれなメタルが襲い掛つて來た。

何と言うレア行動！あのはぐれなメタルが、である。

「狙いはコバルトか!」

はぐれなメタルの狙いは、どうやらコバルトらしい。

コバルトを納めた道具袋を、必要に狙つて来る。

はぐれなメタルと言う位だから、稀少金属が好物なのかもしだい。

何と言うグルメ！コバルトを食べる心算か!?

「だがこれはチャンス！」

コバルトを文字通り餌にして、はぐれなメタルを踏み留まらせる。使うのは当然【魔獸使役】の技能だ。リアルで1／256だろうと成功させる！

「良し！手応え有つたああああああああつつつ
「おめでとう！清水君☆」
!!!!!!

「何なの？この盛り上がり!?」

見事1／256を釣り上げた。

魔獸使役は確率技能では無いが、気分的に1／256である。

「良し！名前は【メタリア】だ☆」

結局コバルト（一枚片）を食べているらしいメタリア。

随分御機嫌に食事中らしく、こちらのリアクションに応えは無かつた。

†

補足&解説枠。

採掘とメタル回になりました☆

コボルトとコバルト

コバルトに関する設定は、作中の通り。

清水の知っていた別作品の設定が、

トータスでそのまま有効化されていた設定です。

V S コボルトロード

資金を手に入れて自由を手にする。

自由の為に戦う！お約束です。英雄願望持ちの清水は、テンションが→います。

はぐれなメタル

得られる経験値が高い事で有名なメタルモンスター。

似のメタリックカラーのゲル状のスライム。

原作の可愛い系では無く、リアルスライム系。

はぐれなメタルが推しなので、

似た感じのスライムをそう呼んでいるだけ。と言う設定。

捕獲率が1／256なのは超有名☆

幸運か時間を使い果たさないと、仲間には出来無い。

本作では運要素の確率捕獲では無いので、鬼畜度は温い。

後は出現率の問題。こちらの方がリア設定。

原作では最弱モンスターとして登場したスライム。

しかし他作品のリアルスライムは、

奇襲が怖い。酸がヤヴァイ。物理がアウト！と中々の難敵として描かれています。

07 トータスの平和と、日本に帰還する第一歩だ！

「結局、メタリアだけだつたか」

「残念だよね？」

「空気が重いわ。無駄に探索時間も使つたから」

清水は例のメタリックカラーを仲間にした事で、調子に乗つた。調子に乗つて、メタル狩りとやらを提案して来た。

要はレベリングだ。メタル専門の。

清水に南雲が同調！仕方無いからメタル狩りを始める。だが例のメタリックカラーは現れ無かつた。

流石は噂のレア・モンスターである。清水の悔しがり様が、半端では無い。

時折今でも「くつ最低3体揃えればフル装備が！」とか呟いている。「来たか。道中問題無かつたようだな？」

「おお檜山！お疲れさん」

「ああ、こんな低層で遅れを取るかよ」

その後は大迷宮の探索も順調に進んで、30層の合流地点に到着した。

オルクス大迷宮上層30階層。

其処に一つ目のゲートが在る。此処のゲートを解放すれば、

入口近くのゲートポイントから、ショートカットが可能になる。

オルクス大迷宮の、第一攻略目標だ。

「南雲君！怪我は無い？」

「大丈夫だよ、白崎さん。

檜山君も清水君も、凄かつたから」

「あら、それは是非拝見したかったわね？」

30層のゲートの手前まで、最初に到達したのは天之河の勇者パーティード。

俺達のパーティーは、メタル狩りで時間を浪費して二番手だつた。

「あれ？え〜と、その子はナニ!?」

「スライムだ。はぐれなメタルっぽいスライム。

名前はメタリア」

「あつそれ私も知つてる！」

でも、余り可愛くない？本当にその子が！？」

「確かに」

「リアルスライムに、可愛さを求められても」

まあ勇者様より早いと、天之河が煩かつたかもしけれない。

俺達のパーティーに、順位を気にするヤツは居ない。どうでも良い事だ。

「あれ、出遅れたかな？」

暫くして、他のクラスメイトのパーティーも到着する。

俺達のパーティーの直ぐ後に来たのが、中村のパーティーだ。

中村と仲の良い女子ばかりの仲良しパーティー。

魔術師ばかりで良く此処まで、と感心してしまう。

「天之河と檜山か、待たせたか？」

次に到着したのは、永山のパーティーだ。

中村のパーティーとは真逆の、体育会系脳筋漢パーティー。

やはり永山と仲の良い、部活仲間でパーティーを組んで居るらしい。

「言うまでも無く、こつちは戦士ばかり。割と本気で暑苦しい。

「ふう、やつと到着かよ」

最後に到着したのは、寄せ集め臭い近藤パーティーだ。

俺が南雲イジメを止めてから、グループは崩壊した。

だがイジメを止めても、イジメグループが快くクラスに受け入れられる事は無かつた。

グループは孤立して、行き場の無いボツチ系が集まつてパーティーになつた。

それが近藤パーティー。寄せ集めパーティーの所以だつた。

「皆！無事に合流出来て何よりだ。

事前情報では、この先にゲートポイントが在る。

オルクス大迷宮の攻略には欠かせない、重要な攻略ポイントになる。

だがその事前情報によるとゲートポイントの前に、
【ガーディアン】と呼ばれる大型の魔物が、居座っているらしい」
要は此処にも中ボスが居るつて事だろう。

そのガーディアンとやらは、コボルトロードより強いのか？

「けれど必ず乗り越えられると信じている。

行くぞ！これがトータスの平和と、日本へ帰還する第一歩だ!!」

†

「居たね？ロボットが、ゴーレムだけど」

「ゴーレムは別腹だろう」

天之河の号令で、30階層レイド戦が始った。

合流地点に鎮座する如何にもと言った大扉の先に、それは居た。
30階層のガーディアン。ジャイアント・ゴーレムのギガント
だ。

ギガントは一応人型だが、足が無い。

釣鐘に腕と頭が生えた、浮遊する鎧のゴーレム。それがギガント
の武威。

「スタートサポート！」

【信仰】→【祝福】!!

如何にも硬く、如何にも重そうな豪腕。

ギガントの豪腕を警戒して、開幕からスタートサポートを掛け
る。

信仰で得た恩恵を【祝福】の効果で共有する。

全体に恩恵を分け与える【祝福】は、大人数のレイド戦でこそ真価
を發揮する。

「これは、良し！」

恵理は援護を！永山は続けつ！！

天之河Pが永山Pを率いて、ギガントに突撃した。

中村Pは後詰の援護だ。

バカ正直過ぎる！如何にも堅牢なギガントの装甲が見えないの

か？

案の定【祝福】の効果が有った上で、ギガントに攻撃が届かない。

「硬そうな釣鐘野郎だ。関節を狙う！」

天之河Pと永山Pが正面からギガンテスと交戦する中、

俺達は戦場を迂回して、側面からギガンテスの関節部を狙う。
重装甲系を相手取る時の常套手段だ。

「ちつザコ共がっ！」

だがそうはさせまいと、ギガンテスは取り巻きを解放する。

ボムゴーレムだ。通称自爆ゴーレム。

見た目はただのストーンゴーレムだが、ダメージが蓄積すると自爆する。

面倒なのがゾロゾロと出て来た。この自爆兵を突破して、仕掛けなければならぬ。

「ザコだな！オレ達に任せろっ！！」

しかし近藤Pが華麗に踊り出て、ボムゴーレムの取り巻き部隊に喰らい付く。

取り巻きとの戦いの方が、楽勝だと判断して参戦したのはバレバレだった。

だが助かる事には違いない。取り巻きは近藤Pに任せて、ギガンテスに攻撃を続行。

「釣鐘野郎は金属口ボっぽいからな、どうせ弱点は【雷撃】だろ！」

【洗礼】！【雷撃付与】つつ！！

【洗礼】は自身の武器に、闇を除いた五属性のどれかを任意で付与出来る。

今回は【雷撃付与】だ。祈りの剣に雷撃が宿る。

「喰らえっつ！！」

何度も何度も、ギガンテスを雷迅剣で斬り捨てる。

だがギガントースは沈まない。効いていない訳じゃない。しぶといだけだ。

何度雷迅剣で斬られても、ギガントースは踏み留まる。

「ちつ釣鐘がああっつ！！」

雷迅剣の連撃を前に、ギガントースは怯んだ。怯んだように見えた。だがそれは誤りだった。ギガントースは後退すると、胸の装甲を開い

た。

装甲が開くと、中から無数の槍がその姿を現す。

「メタリア！メタルシールドツツッ！」

「鍊成↓【アースウォール】」

悪寒がした。死の影を感じた。

俺を捕らえようとする、死神の鎌を幻視した。
無数の槍が、ミサイルの如く投擲される。認識が追い付く前に退避していた。

後方では清水がメタリアを大盾に変化させて、

南雲が土壁を鍊成して、後衛陣を護る姿が視界に映る。

「うわあああつっ！」

それより外周では、ボムゴーレム達が自爆を始めていた。
近藤Pが連鎖的な爆発を前に、陣形を崩して行く。思つたよりも早い。

「今だつ！天之河つっ！」

「行つて！光輝つ！」

永山Pと中村Pが正面からギガンテスを押さえる内に、
天之河Pが、遂にギガンテスの背後を取つた。

「うおおおおつっ！！！」

ギガンテスの背後から、天之河Pが決死の攻撃を加える。
怯むギガンテス。だが再び胸の装甲を開いて、天之河Pを捉えた。

「やらせるかああつっ！」

再び開いた胸の装甲部分に、雷迅剣を叩き込む！

何度も何度も、ギガンテスが沈黙するまで叩き込む。

「どうだ！釣鐘野郎がつっ！」

ギガンテスが崩れ墜ちた。

投擲する筈だつた槍を真上に撃ち出して、

落下して来た槍に、自ら貫かれて串刺しになつた。ギガンテスは沈

黙した。

戦いは終つた。30階層ゲート解放戦は、勇者Pの勝利で幕を閉じる。

†

補足&解説枠。

30階層のガーディアンとのレイド戦です。

メタル狩り

経験値獲得が高くレベリングに効率的な、

メタルモンスターを重点的に狙つて狩る事。

またはメタルモンスターを、効率的に狩る手段の事。

合流地点

ゲームなら、確実にセーブポイントが在る場所。

ボス部屋前の謎の空き部屋。控え室なのかも知れない。

近藤P

お察しの通り、最弱のパーティ。

寄せ集め。自分より弱い魔物としか戦わない。→賢い選択。

祝福

自身に与えられた恩恵（バフ）を、仲間にも施す技能。

任意に与える恩恵を選択可能。

恩恵を与える人数。与える恩恵の項目数で、消耗するMPが激変。

多用は厳禁。

ボムゴーレムの自爆攻撃を前に、近藤Pが生き残れたのはこの技能のおかげ。

洗礼

【地】【水】【火】【風】【光】の、

全六属性中、五属性を任意に一つ付与出来る。

しかし六属性中、闇属性だけは付与出来無い。

結果、光属性の相手には優位に立てない。

また作中の雷撃付与の雷属性は、風属性の派生属性となる。

メタルシールド

メタリアが武装化して、大盾に変化した姿。

他にも鎧や兜。武器にも変化出来る。高性能枠。

武装化した際にもメタリアがサポートしてくれるので、清水が本来装備出来無い重装備でも、取り扱う事が可能。

08 少しだけ周りにも目を向ければ、答えは見つか
るんじゃないかな？

「メタリア！メタルシールドツツ!!」

30階層ゲート解放戦。私はこの時、死を覚悟した。

30階層を護るガーディアンは強大で、

アレと平氣で戦える清水と檜山は、凄いと思う。

そうこうしてガーディアンとの戦いが続く中、

ガーディアンの攻撃が、槍の雨が降り注いだ。

あつこれは死んだな？と、私は悟ってしまった。

これを防げる手段を、私は知らない。

逃げるのも無理。もう間に合わない。何でこんな事だけ、直ぐに解
るんだろう？

「清水？」

「園部。動くな、じつとしてろ」

だけど私は死な無かつた。まだ生きてる。

清水が、

いつの間にか身長よりも大きな盾を構えた清水が、私を護つて盾になつていた。

ガンガン盾に槍が当たる金属音が、酷く現実的だった。

隣りでは南雲が土の壁で、同じく妙子と奈々を護つているのも見え
る。

「範囲攻撃か、面倒だな」

清水はこんな状況でも臆する事無く前を、ガーディアンを見てい
た。

あの時の宣言通り、清水は前に出ている。

私にはそんな清水が、とても大きく頼りに見えていた。

「うつひやああつ、ナグモ君やつるうううつつ
！」

「助かつたよ南雲君！ありがとうネ☆」

「それは良いから、大人しくして!?」

うん、隣りが騒がしくて色々と台無しだつた。

でもそれから、どうにかしてガーディアンの討伐は成功する。

問題のゲートを解放すると、プレートの一番下に備考が追加されたいた。

|||||||

備考

オルクス大迷宮踏破記録★☆☆☆☆

|||||||

オルクス大迷宮の踏破記録！

この★が30階層のゲート解放の印なのかな？

残りの☆は、未開放のゲート？

この先60階層とか90階層にも、ゲートが在るとか？

なら四つ目と五つめの☆はナニ？

オルクス大迷宮って、100階層じゃないの？

「結局、何処まで続くの!?」

解放したゲートで、今日は一旦ホルアドに戻る事になる。
これからはこのゲートで、30階層から探索出来る。

無理をする必要は無い。と言う判断らしい。

「清水。どうかしたの？」

「園部か」

宿泊先の、騎士団御用達の宿屋に戻る。

休暇の過ごし方は人其々だ。宿屋で休む子や、元気に町に繰り出す子も居る。

私は前者だつた。まず身体を休めたい。

宿泊先は騎士団御用達の高級な宿だつた。お風呂が在る。
異世界ではお風呂が在る宿屋は高級扱い！

でもメルドさんに頼んで、クラスの女子で団結してお風呂付きの宿屋を選んだ。

探索の後は、入浴しない何て在り得ない。

「上手く行かないモノだと思つてな？」

「綺麗——」

入浴を終えて、風に当たるとサロンに顔を出す。するとサロンには清水が佇んで居て、何か難しい顔をしていた。何が有つたのか訊ねると、清水は懐からそれを取り出した。

それは蒼い光りを宿した貴石だつた。蒼い宝石の指輪。

綺麗なコバルトブルーの指輪で、意識していくなくても目を奪われてしまう。

「それで、その指輪は？」

「例のコバルト。そのまま鉱石として売るより、宝石としてカットした方が、高く売れそうだろう？ブリリアントカットとか」

「宝石のカット何て出来るの!?」

「南雲に頼んだ。アイツは鍊成師だから、得意分野だろう？でも流石に、手間と集中力の消費が半端無かつたらしい。とても財テクには使えない非効率的結果だ」

そして残つたのが、試作品となる目の前の指輪らしい。

残念だと思う。財テクの話では無くて、

こんなに綺麗な指輪が、日の目を見る事無く死蔵されてしまう事が。

「南雲は将来、宝飾デザイナーに成れるかもしれない。
園部？」

「あつ聞いて無かつた。何？」

すると清水は、コバルトブルーの指輪を握らせて来る。

えつこれつてどう言う事!?と放心している内に、私を置いて話しあ進む。

「それは園部に渡そう。

園部はパーテイーの仲間。戦果の分配を受け取る権利が有る

「でも、私は——」

「受け取り辛いか？それならお約束で」

今日は本当に、こんな事ばかり。

清水は私の掌から指輪を一度受け取つて、躊躇う事無く、私の左手の薬指に嵌めた。何を？指輪をだ。

「それはプレゼントって事で☆」

「ちよつ！これはやり過ぎでしようおおおつっ!!!!!!でも私は余りの展開に脳がフリーズして、指輪を返し損ねてしまう。

未だにコバルトブルーの指輪は、私の指で輝いている。

流石に南雲もアーティファクトは作れないから、

アミュレットやタリスマント的な効果は何も無い。それが残念だ。

とか、

清水は呟いていた気がしたけど、私の耳に届く事は無かつた。

†

「指輪をプレゼントして、指に嵌めた？」

「ダウトだろう」

「園部が指輪を贈られた」と。

ホルアドに滯在中のクラスメイトの中で、既に噂になっていた。

「園部が指輪を嵌めて居たら、それは目立つ。

園部がクラスで、目立つ奴だと言うのも大きかつた。

端的に言つて、クラスカーストの上位者！と言うヤツだ。

直ぐに好奇心旺盛な、クラスメイトの餌食になつた。

しかも指輪を贈つたのは、同じクラスメイトだ。

カツプル成立などとはLVが違う。プロポーズか!?と騒ぎになつてゐる。

園部の様子は俺も確認した。

余りの展開に脳がフリーズしているのか、反応が悪い。

この反応の悪さを、周囲が勝手に補填してしまつてゐる。

クラスメイトは花畠を耕してゐる。と言う状況だった。

「アレは、本当に何の効果も無い指輪何だ。

ただの売却用でしか無い。そんな指輪を相手に、園部は目を輝かしてた。

「プレゼント位！したくなるだろう？」

「このゲーム脳が！それはゲーム内の話だ。

指輪をプレゼントと言つたら、日本ではプロポーズがデフォルトだろ！」

正氣に戻れ。此処は異世界だが、俺達は日本人だ」「ぐつなら、回収した方が？」

「色々行き違ひが遭つたが、指輪を受け取つたのは園部だ。此処で指輪を回収するのは、園部を疵付ける」
†

「つて、何を上から目線で☆」

頃垂れる清水を置いて、宿屋を出る。

清水は明らかにしくじつた。だがそれで気付いた事も有る。

俺は、ノイントに土産物の一つも用意していない！と言う事実にだ。

あの清水が、ワンオフの指輪をプレゼントだと!?

対する俺はホルアドまで来て、何もしてネエツツ!!

これはマズイ！そう悟つて、清水に対抗してホルアドの宝飾店に入した。

「ぐはつハルマゲドンクラス！」

初めて見る宝石は、最終戦争的に高額だつた。

俺が出せる支給金では、まず買えない。

清水が金を稼ぐ話をしていたが、状況を理解した。

「あつ檜山君？」

「白崎！さん」

厳しい現実を理解した処で、香織と遭遇する。

咄嗟に【香織】と呼ば無かつた自分を、誉めても良い。

「ちよつと驚いたかな？檜山君はどうして此処に？」

「そ、それは――」

香織は女だから！…と言う免罪符でクリア出来る問題だが、俺は違う。

男の身で一人！宝飾店に行くのは目立ち過ぎる。

だが浮気がバレたかのように慌てるのも、何か違う。

「今、噂になつてゐるだろう? 清水と園部が。

だから俺も、土産物の一つも用意しようかと」

「ああ、優花ちゃんと清水君のあの噂があ」

咄嗟に何のフォローも浮かば無い。

もう殆どノンフィクションである。別に隠し事じやネエ死☆と開き直る。

「それで、檜山君もプレゼントを贈りたい人が居るの?

どんな人? 良ければ相談に乗るよ!」

「いやでも、宝石はアホらしく高いし!

俺じゃ手工出せネエよ」

「ああ確かに宝石は値が張るよね? でも――」

と言つて香織は手を広げる。広がつた先に在るのは、

宝石が収まるショーケースでは無く、観光客向けの土産物コーナーだつた。

「少しだけ周りにも目を向ければ、答えは見つかるんじゃないかな?

それでも本物の宝石をプレゼントしたかつたら、もう頑張るしか無いと思う

観光客向けのアクセサリーなら、俺の財布でも対応出来る。

ガチの宝石は残念だが、今は手が出せない。

上から目線で語つた後でアレだが、清水に相談しよう。

「そうか、そうだな?」

その後は香織と、土産物コーナーを物色した。

何とかノイントに似合いそうな土産物を、ゲットしたと思う。

だが清水のコバルトの指輪には、敵わない。何か負けた気がする。

「白崎さん。もうとつぶにバレてるかも知れないけど、

ついこの間まで、俺は白崎さんの事が好きだつた

「檜山君!」

「でもまあ、色々遭つて諦めたよ。

南雲が羨ましかつた。本当に」

「えつと、態度に出てた。とか?」

「バレバレだから。まあ早い処上手くやると良い。

遅れると、ハーレムが出来た後になるから。

今日は助かつた。ありがとう』

「ちよつ!? 檜山くくくんつつ!!」

今日の礼を伝えてから、香織に背を向ける。

ポロツと本音が零れたが、まあ良いだろう。きっと大差は無い。

俺が魔王を仕留めるからだ。魔王南雲！俺はお前の誕生を許さな

い。

†

補足&解説枠。

ホルアドの休日回でした☆

ブリリアントカット

ダイヤを最も美しく魅せる。と謳われたカット。58面体。

鍊成でカットするのも、理論上は可能！と言う設定。但し高難易度。

クラスカースト

教室内の発言力や、影響力を身分制度に例えたピラミッド。

友人の多いイケメンや、コミュ力の高い美少女が頂点を担い易い。

元ネタで一番偉いのは【神官】。ハイリビ王国と同じ穴である。

ゲーム脳

ゲームのプレイ、クリア、最速最適最強など、

ゲームに適応した判断／行動を下せる脳の事。または人物。

リアルでゲーム脳判断を下すのは、基本的にNG！マナー違反になり易い。